

## 平成24年第1回図書館協議会視察研修

1. 日 時 平成24年7月25日(水)
2. 視察場所 宇佐市民図書館、豊後高田市教育委員会
3. 参加者 委員：土岐、石井、立川、佐藤、大林、高橋  
図書館関係：小松副館長、谷中図書館職員 計8名
4. 日 程 別府市役所発—宇佐市民図書館 10:30~11:30—昼食—豊後高田市教育委員会 13:30~15:00—  
別府市役所着 16:30
5. 視察内容要約

### [宇佐市民図書館]

施設設備や運営等でぜひ視察をしたいと思う図書館である。

館内案内では、ゆったりした閲覧室、書架の配列の工夫、様々な活用が出来る部屋の使い方、広い書庫等充実した施設に驚いた。また、館内のいろいろなところに本を身近に感じられるような細かい配慮が感じられた。図書館設立には市民と行政の意識が一つになり、この様な素晴らしい図書館が生まれたそう。職員だけでなく、ボランティアの方々の協力が大きく、当日もお話し会が開催されており、参加人数も多く市民の意識の高さを感じた。市の行政関係施設の近くにあり立地条件のよさを感じる。

館内見学後の説明会では委員さん方から運営に対してのたくさんの質問も出された。具体的な取組についても丁寧に説明をしてくれ、別府市立図書館でも参考になる事柄を聞くことができた。

自動車（移動）図書館については、専用の書庫や専任職員もおり充実している。宇佐市では学校司書がないため、学校図書館の充実のため、市民図書館と学校の連携が進められ、前向きな取り組みを感じた。しっかりしためざす図書館像を持ち一つひとつの取り組みが繋がっている。別府市立図書館でもぜひ参考にしていきたい。

### [豊後高田市教育委員会]

新図書館建設に取りかかり、来年2月完成予定の豊後市立図書館設立担当の方に建設に至るまでの取り組み等を説明して頂いた。

「教育の町づくり」では未来を拓く人材の育成を大切に、これまでもいろいろな施策を講じている。その重点事業の一つとして図書館建設があり、幅広い世代が「学ぶ場」として新図書館が新しいまちづくりには必要であるという市民と行政の意識が一つになって実現に結びついたと感じた。

市有地の有効活用（普通の体育館6個分の広さ）、中心地（宇佐市と同じ）という立地条件、また、多くの方々の意見公募をもとにしながら基本計画を策定している。

設計者選考はプロポーザル方式、総経費は約9億2千万、国庫や地方交付税等で補てん、新図

書館は25年2月開館予定であり、管理運営は民間のノウハウを活用することで指定管理者制度（TRCグループ）を導入していくそうである。

この管理運営方法についての質問が多かったが、市民が利用しやすく、めざす図書館の視点から十分検討した結果のようだ。この件については今後の情勢が気になるところである。

両図書館の視察では予定時間を過ぎるほどたくさんの質問事項も出され、委員さん方の図書館に対する意識の深さを感じた。今回視察研修で学んだことからや委員の皆様のご意見を頂きながら今後の別府市立図書館の運営を進めていきたい。

研修を終え、参加者全員の思いは近い将来、別府市にも市民、行政の意識が一つになり、素晴らしい図書館が建設できることであろう。

暑い1日であったが、有意義な時間を過ごすことが出来た。